

## 当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

古河電気工業株式会社

当社では、取締役会の機能向上を図ることを目的として、取締役会が適切に機能しているかを検証し、その結果を踏まえて問題点の改善や強みの強化に必要な措置を講じていくという継続的なプロセスにより、2015年度から毎年、取締役会の実効性に関する分析・評価を行っております。

この度、2023年度の分析・評価が完了しましたので、以下のとおり、その概要を開示いたします。

分析・評価の方法	取締役・監査役全員にアンケートを実施したうえで、その集計結果に基づき、社外役員会議および取締役会において、取締役会の実効性に関する議論を実施しました。 なお、集計結果のより深い理解を目的に、取締役・監査役全員を対象とした取締役会議長による個別インタビューを実施(取締役会議長に対しては幹事社外役員が実施)し、その結果を上記取締役会で共有しております。
アンケート項目	I. 取締役会の役割・責務等(総論/中長期的な経営計画/業務執行関連/リスクマネジメント・コンプライアンス、サステナビリティ関連/指名・報酬委員会関連) II. 取締役会の運営 III. 社外役員の支援・連携に係る体制 IV. 監査役への役割・監査役に対する期待 V. 株主その他のステークホルダーとの関係 VI. その他(取締役会全般、個人評価)
分析・評価結果の概要	当社取締役会は、前年度の実効性評価の結果を踏まえて実効性向上に向けた施策に取り組んでおり、当社グループ全体の持続的成長や中長期的な企業価値向上の観点から、取締役会全体として積極的で活発な議論および業務執行に対する監督も適切になされていること、また業務執行において社外役員の豊富な経験および高度な知見に基づく有益な提言・指摘等が反映されていることがあらためて確認でき、本年度においても、取締役会の実効性が確保されているものと分析・評価しております。

### [2022年度の取組み方針・評価結果、2023年度の取組み方針]

#### 1. 2023年度の重要課題、特に注力する施策

	2022年度		2023年度
	取組み方針	評価結果	取組み方針
(1) 中期経営計画、事業ポートフォリオの見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業ポートフォリオ・中期経営計画の進捗確認・課題の検討等を促進し、取締役会で議論する。</li> <li>➢ 社外役員の事業への理解をより深めるため、定期的に事業所見学会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業ポートフォリオ見直しや中期経営計画の充実した議論が行われている。今後はスピード感をもって有効な施策を実行することが必要となる。</li> <li>➢ 事業所見学会が2回開催され、社外役員が製造現場を知るよい機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業ポートフォリオ変革について、実施状況の定期報告の継続、および中長期的に当社が目指す事業/製品群ポートフォリオの具体化に向けた取組み状況等を取締役会に報告し、施策の実行を後押しするべく議論を実施する。</li> <li>➢ 中期経営計画の進捗を踏まえ、財務目標達成に向けた具体的施策を取締役に報告し、施策の実行を後押しするべく議論を実施する。</li> </ul>
(2) 取締役会の運営関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 社内役員と社外役員、社外役員同士のコミュニケーションの強化の機会を増加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 社内外役員の情報共有の機会が設けられ、コミュニケーションが強化された。</li> <li>➢ 意見交換の機会のさらなる充実が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 取締役会での骨太議論の充実を図るほか、経営上の重要事項などについて自由闊達で忌憚のない議論・意見交換をする場を設ける。</li> </ul>

2. その他、継続的に対応する課題・施策

	2022 年度		2023 年度
	取組み方針	評価結果	取組み方針
(1) 取締役会の構成、指名・報酬委員会関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 指名・報酬委員会において、取締役会の構成、スキルマトリクス等に関する議論を行い、取締役に報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 指名・報酬委員会では、スキルマトリクスなど様々な議題について議論が行われている。</li> <li>➢ 取締役会の構成については継続的な議論が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 中長期的な課題として、取締役会の構成やスキルマトリクス等を指名・報酬委員会の議題に組み込み、議論を実施する。</li> </ul>
(2) リスクマネジメント関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全社的なリスク認識の深化を引き続き推進する。</li> <li>➢ 当社および国内外関係会社におけるリスク管理活動を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全社的なリスク認識の深化、およびリスク統制活動の国内外関係会社に対する拡大・深化が推進され、リスクマネジメント・コンプライアンス対応への体制整備が進んでいる。</li> <li>➢ リスクの想定とリスクに対する備えは常にアップデートが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 外部環境の変化に対応するために、リスク認識を継続的にアップデートする。</li> <li>➢ 重点分野のリスクが発現した場合に備えて対策を立案し、準備しておく。</li> </ul>
(3) サステナビリティ関連 (ESG・SDGsを含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ サステナビリティにおけるリスクと機会、および各サステナビリティ指標の目標に対する進捗等について、議論を促進し、取締役に報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ リスクと機会、パーパスの制定、各サステナビリティ指標の目標に対する進捗、統合報告書の内容等について、活発な議論が行われている。</li> <li>➢ 引き続きパーパスの制定および従業員への周知活動や、サステナビリティ指標の目標達成への施策の実行が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ パーパスの制定および従業員への周知・浸透活動、およびサステナビリティに関するその他の重要課題に関する議論を推進したうえで、取締役に報告し、議論を実施する。</li> </ul>

以上